
無線LANの能率的かつ安全な利用のための
情報セキュリティ対策の周知啓発事業（平成29年度）

無線LANサービス利用者のセキュリティ 意識調査（概略版）

調査の概要

項目	内容	
調査目的・背景	<p>総務省では2020年オリンピック・パラリンピックの東京開催を見据えて、観光立国を推進する観点から、関係省庁、関係団体とも協力しつつ、公衆無線LANの整備促進に取り組んでいる。公衆無線LANは外出先等で高速な回線を利用できる点で便利である一方、盗聴、なりすましといったセキュリティ上の懸念もあり、正しい知識を持って利用する必要がある。</p> <p>総務省では、平成26年度に日本の公衆無線LANの安心安全利用の観点から、公衆無線LANに期待される要件や現状の改善点の検討に資するため、訪日外国人及び日本人に対し、公衆無線LANの利用状況や情報セキュリティに係る意識及び対策状況について調査を実施したところである。日本人を対象に同様の調査を継続することによって、意識や行動の経年変化を把握する。</p>	
調査方法	Webアンケートによる調査	
調査時期	平成29年12月20日～25日	
調査対象 (1,274人)	<p><共通条件> スマートフォンまたはタブレット端末を利用して無線LANを日常的に利用している18歳以上の日本人調査においては、18～19歳は20歳代、70歳以上は60歳代に含めて分析を行っている。</p>	
	<p><公衆無線LAN利用者> 公衆無線LANを日常的に利用している人732人</p>	<p><自宅のみでの無線LAN利用者> 自宅でのみ無線LANを日常的に利用している人542人</p>
	<p><うち観光客> 上記のうち、首都圏以外に居住し、最近1年以内に首都圏を観光で訪れ、スマートフォンまたはタブレット端末を利用してインターネット接続をした経験のある人352人</p>	<p><うち観光客> 上記のうち、首都圏以外に居住し、最近1年以内に首都圏を観光で訪れ、スマートフォンまたはタブレット端末を利用してインターネット接続をした経験のある人243人</p>
調査事項 (設問)	公衆無線LANサービスの利用状況、満足度、利用に当たっての情報収集の有無、公衆無線LAN利用に係る脅威の理解度、情報セキュリティ対策状況、公衆無線LANサービスの改善点、今後利用したい通信手段 等	

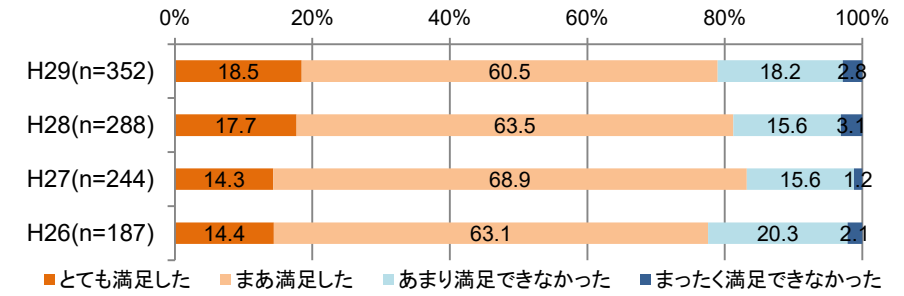
<調査結果の表記に係る注意事項>

- ・ アクセスポイントは「AP」と記載しています。 ・ ユーザIDは「ID」、ログインパスワードは「PW」と記載しています。
- ・ 設問によっては「公衆無線LAN」を「Wi-Fi」と表記している場合があります。 ・ 「SA」は単一回答(Single Answer)、「MA」は複数回答(Multi Answer)を表しています。

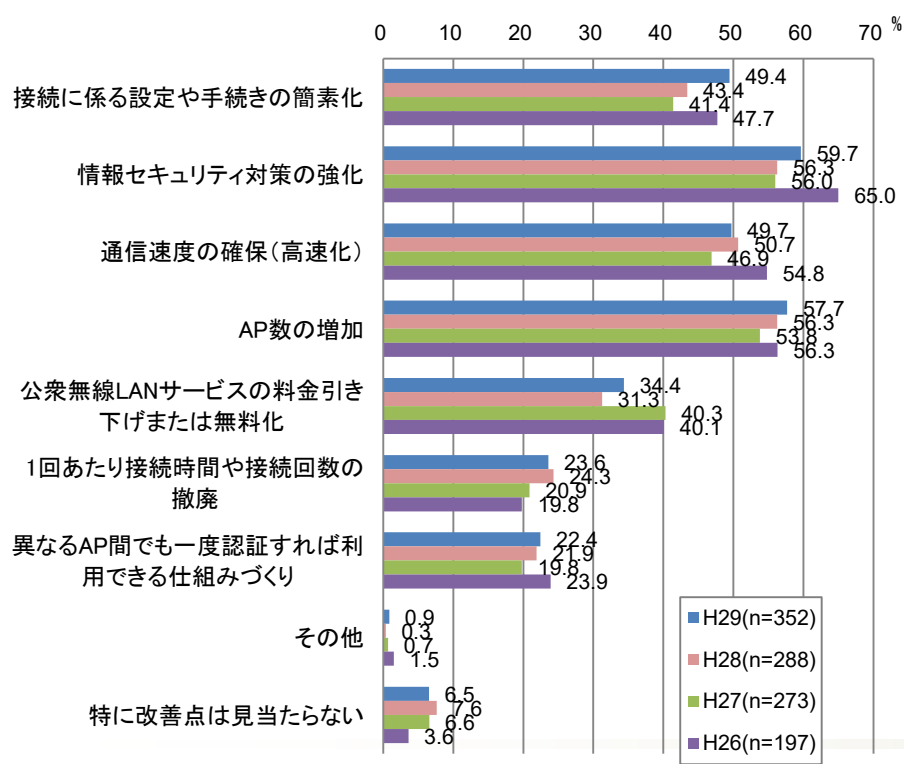
調査結果ポイント(1) 日本人観光客の間で公衆無線LANの利用が定着

● 観光客に満足度は過年度とほぼ同程度。情報セキュリティ対策やAP数増加へのニーズが高い。

【外出先での公衆無線LANの満足度】

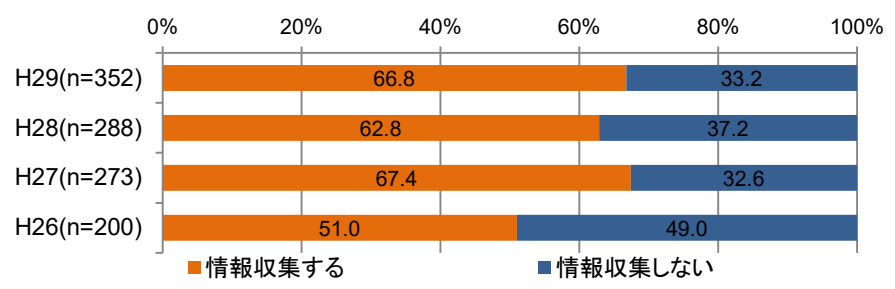


【公衆無線LANの改善要望】

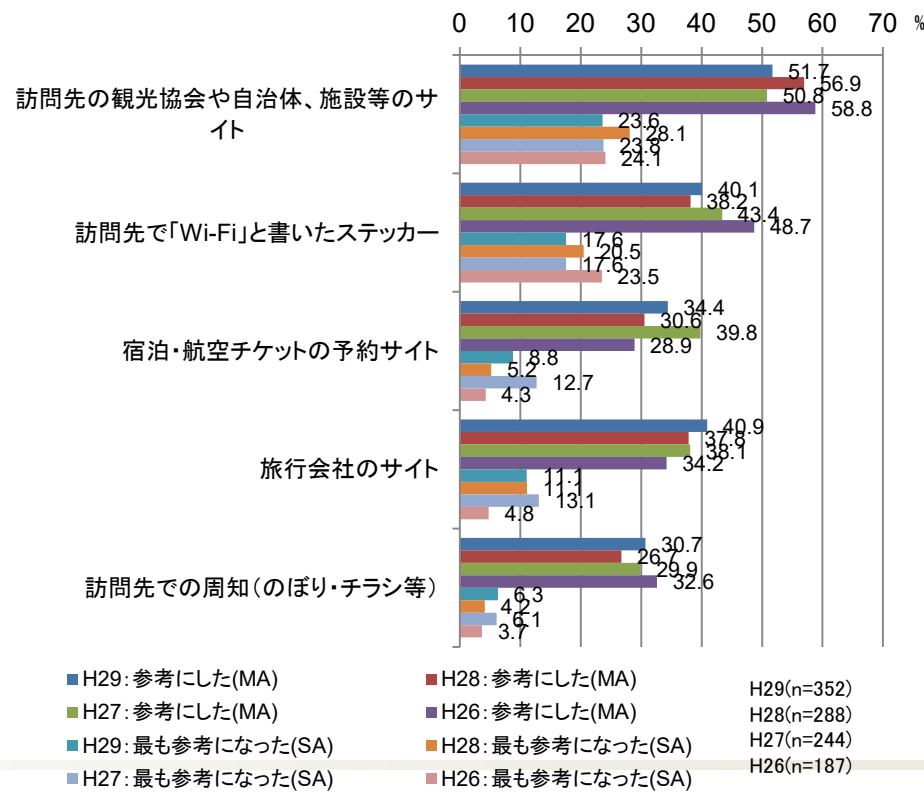


● 観光客にとって、観光先での公衆無線LAN利用の可否は要チェック情報。出発前に観光情報ルートで入手している。

【観光に際しての公衆無線LANに関する情報収集】

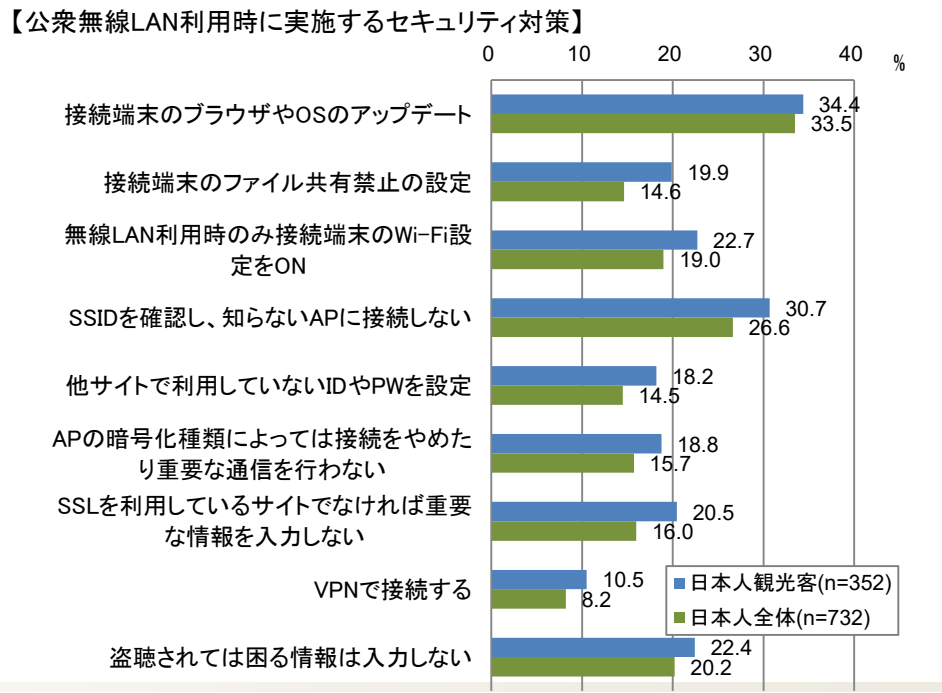
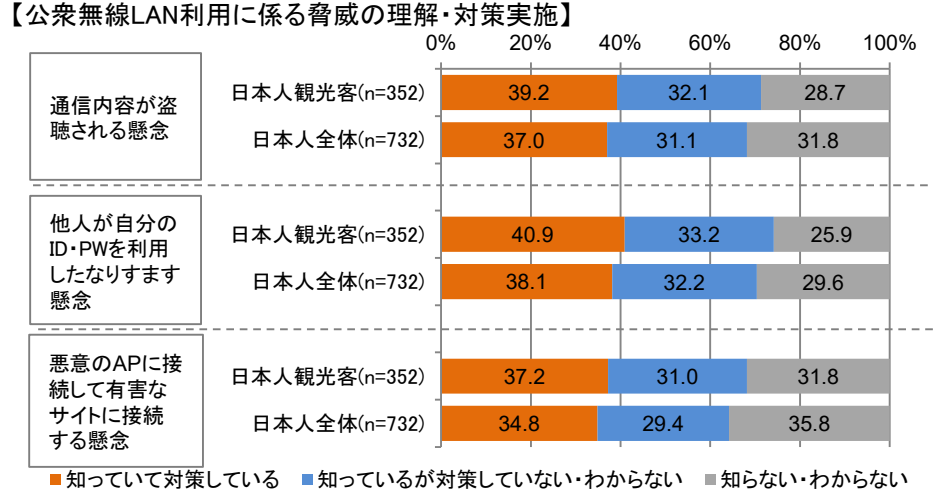
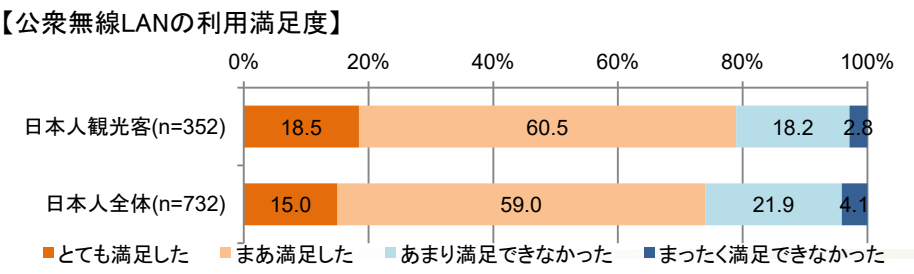
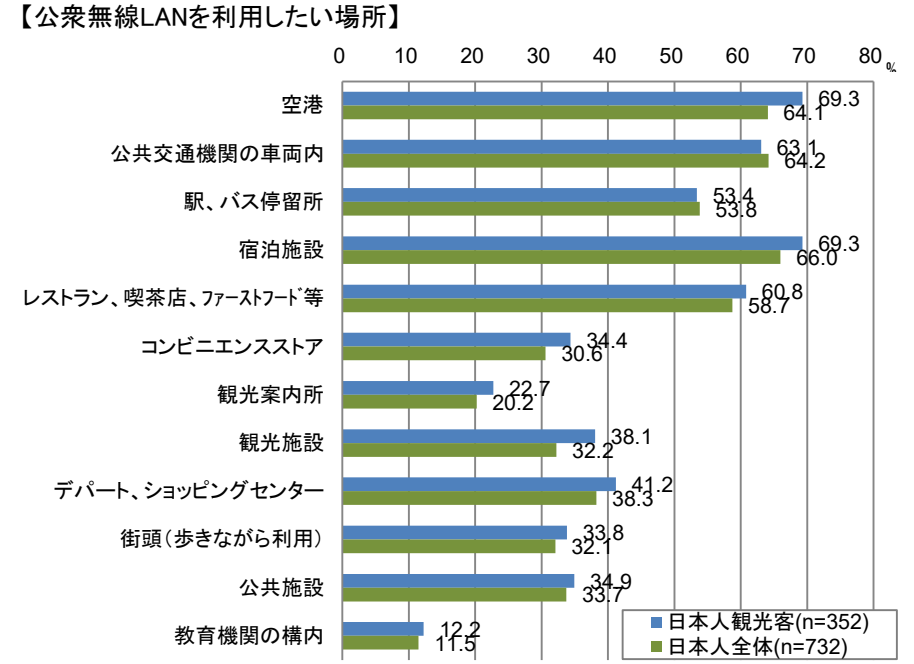
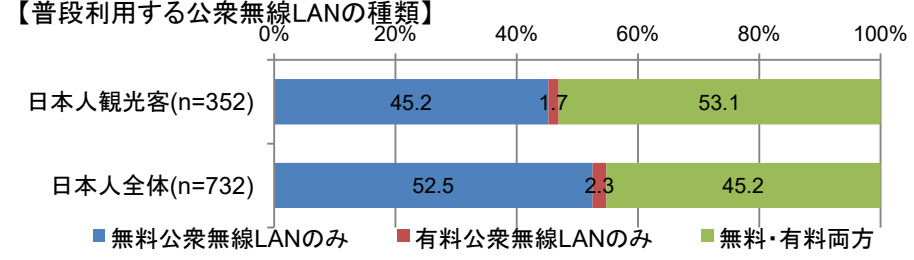


【観光地での公衆無線LANに関する情報ソース】



調査結果ポイント(2) 日本人観光客と日本人公衆無線LANユーザ全体の傾向はほぼ一致

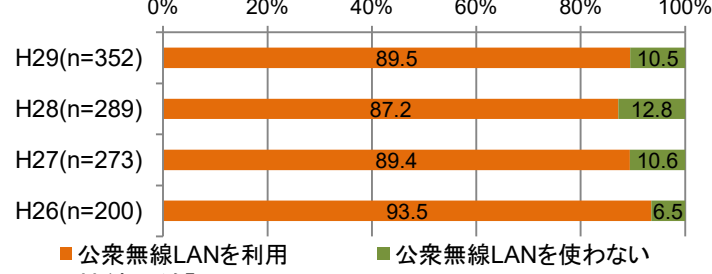
● 日本人観光客は、日本人公衆無線LANユーザ全体と比べると、有料の公衆無線LANの利用者も多い。利用実態や情報セキュリティに対する意識行動は、やや観光客の方が積極的な程度でほとんど差がない。



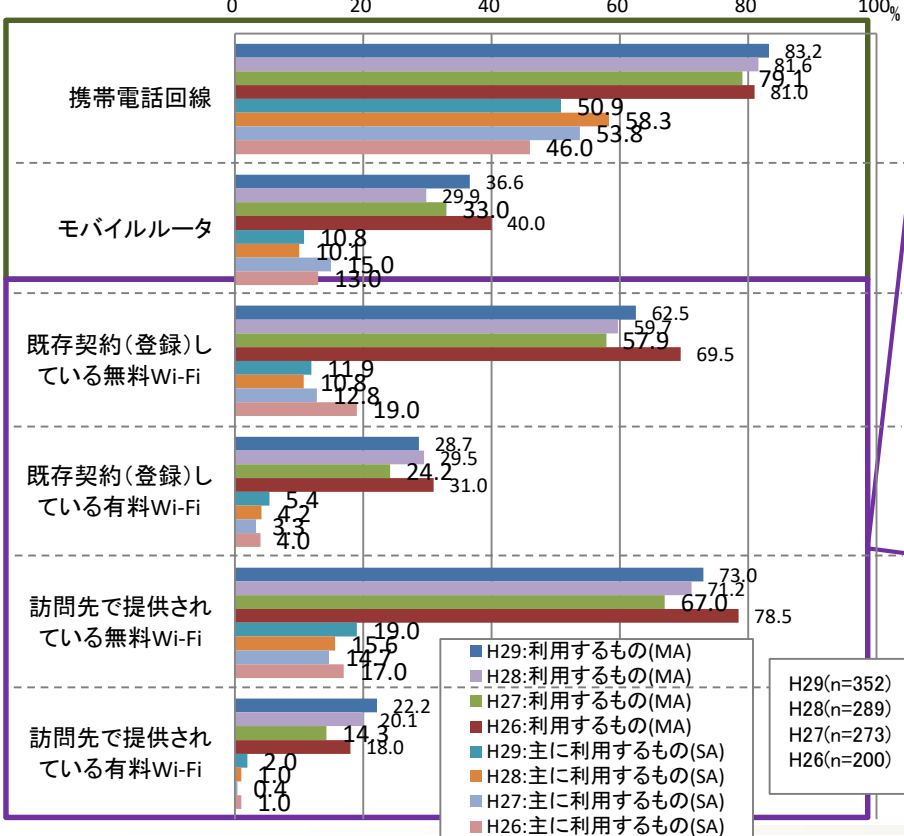
調査結果ポイント (3) 外出先では携帯電話回線をメインに、簡便・無料な公衆無線LANを併用

- 公衆無線LANユーザでも、外出先で携帯電話回線を利用してインターネット接続をするユーザが多い。
- 無料の公衆無線LANユーザは無料で簡便に利用できることに魅力を感じ、有料の公衆無線LANユーザはサービス品質を重視する傾向。

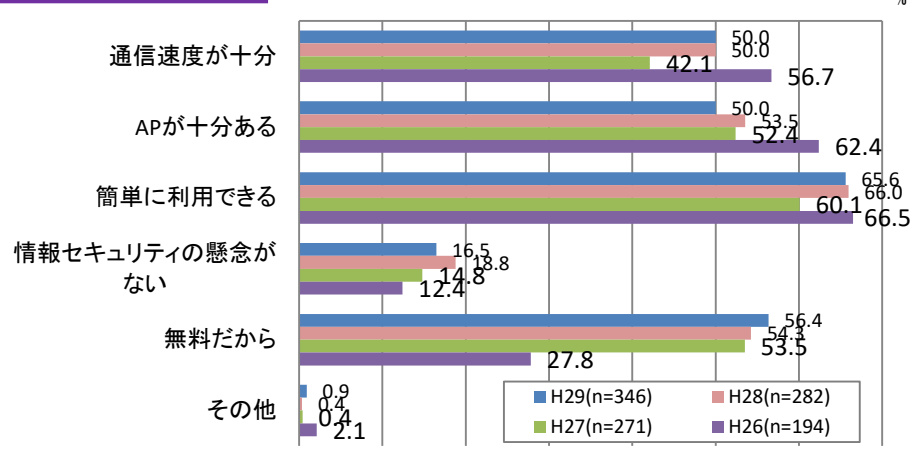
【外出先での公衆無線LAN利用有無】



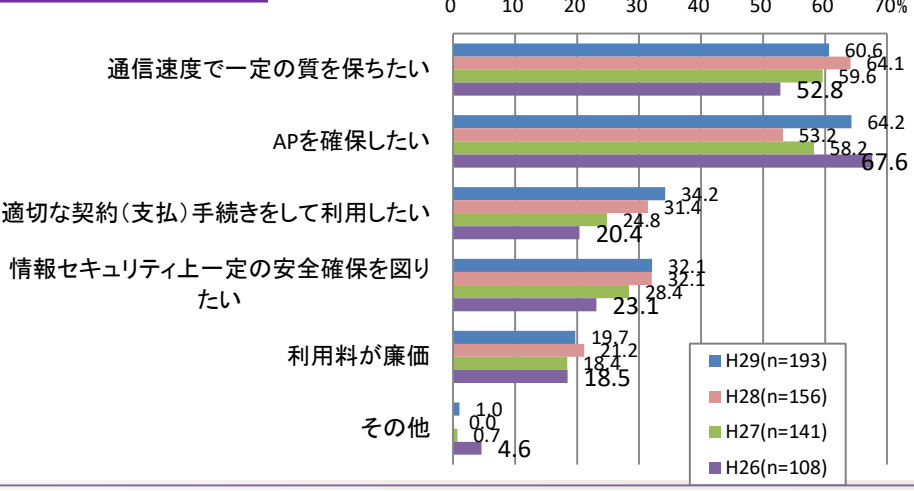
【外出先での接続回線】



無料Wi-Fi利用理由



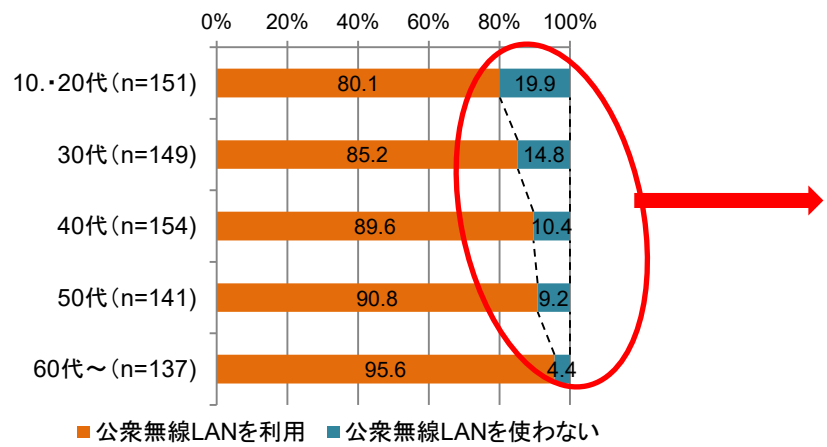
有料Wi-Fi利用理由



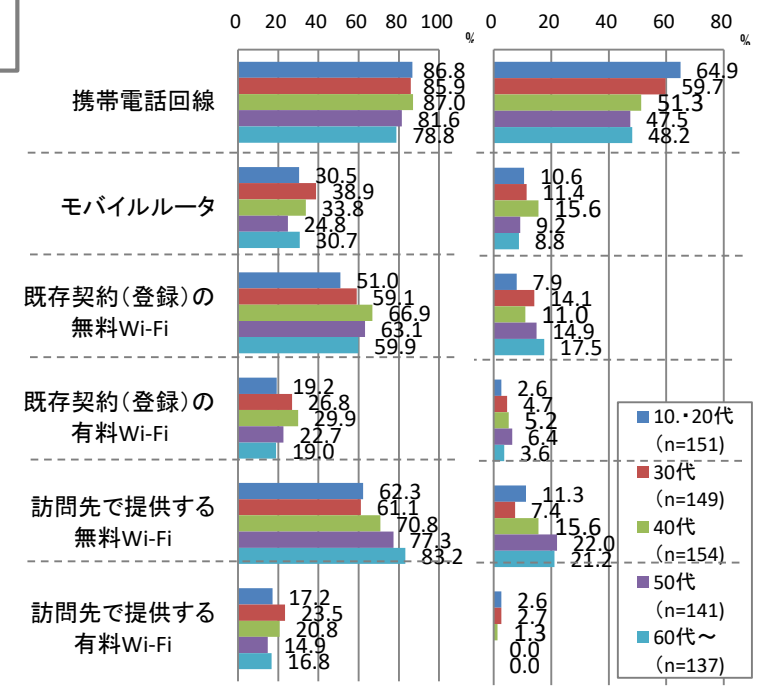
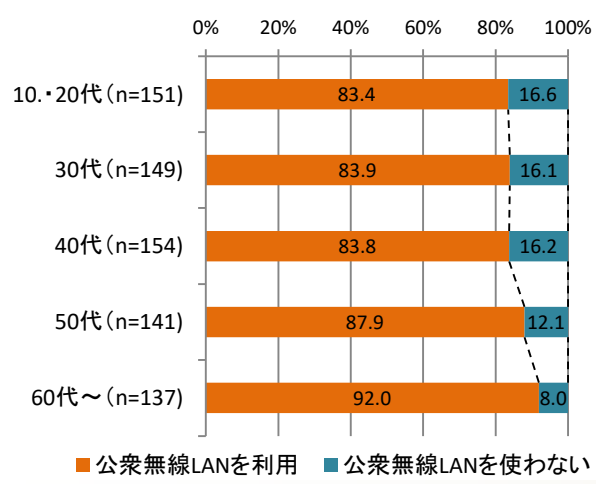
調査結果ポイント (4) 若年層では 公衆無線LAN < 携帯電話回線

● 若い世代ほど公衆無線LANを利用しない傾向があり、今後の利用意向も中高年層の方が高めで、若年層は携帯電話回線依存傾向。

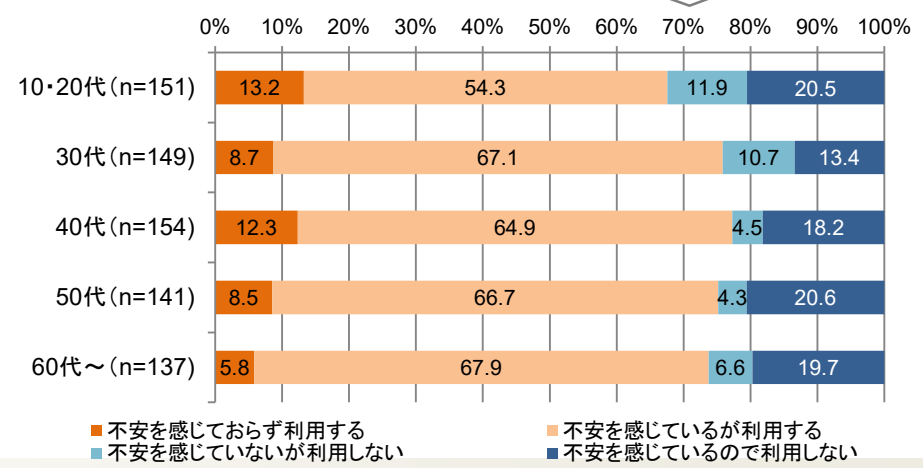
【外出先での公衆無線LANの利用有無(現在)】(年代別)



【今後、公衆無線LANの利用意向】(年代別)

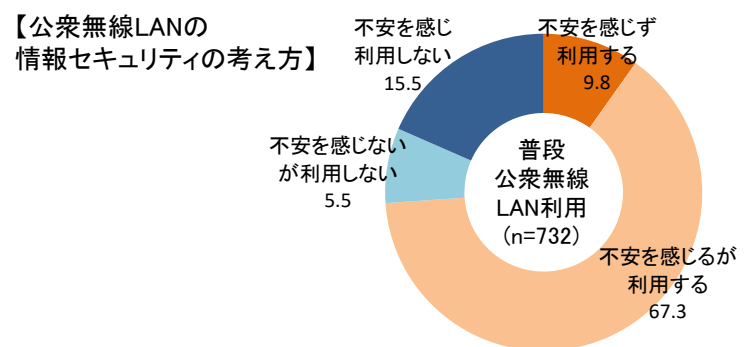
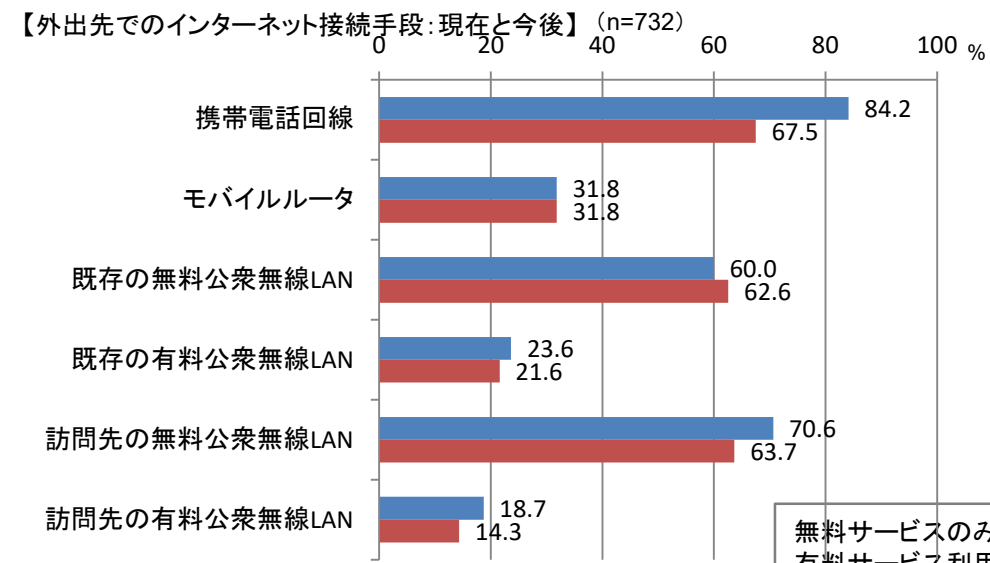


セキュリティ上の不安にかかわらず、若い世代で「利用しない」がやや高い。



調査結果ポイント (5) 不安を残しつつ今後も公衆無線LANを利用

- 携帯電話回線と無料の公衆無線LANの利用意向が高いが、無料サービスのみの利用者は無線LANの脅威に対する理解や対策は低い水準にあり、不安が残る。尤も、不安を感じながらも利用する、という意識の利用者が大半を占めている。
- 公衆無線LANサービス選択条件として、「無料」「高速」が重要視されているのは従来通りだが、暗号化への評価の比重がやや低下し、手続きの簡便さへの評価の比重がやや高まっている。

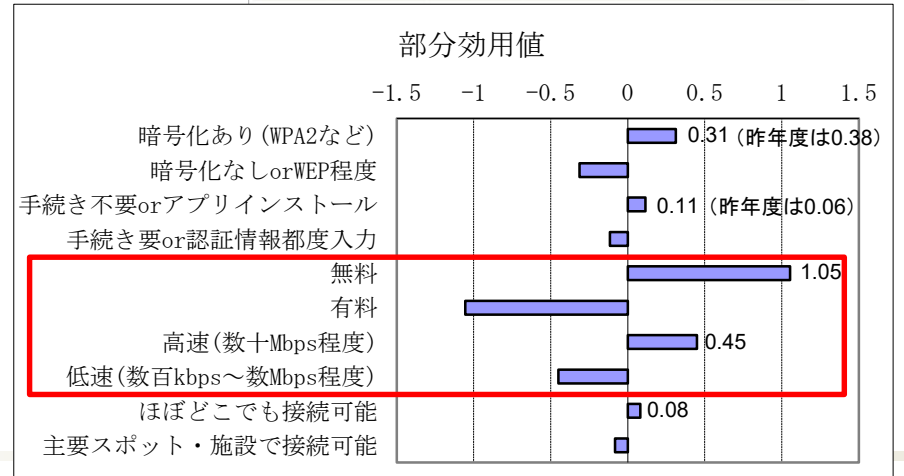
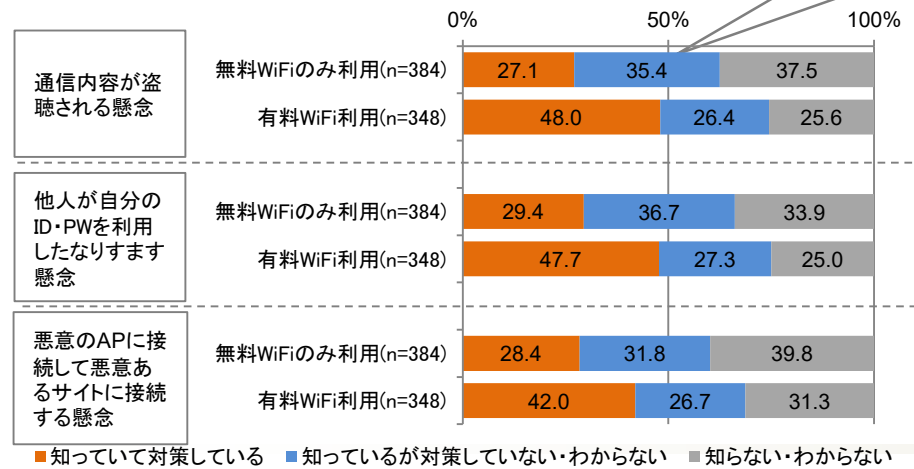


【公衆無線LANサービスの選択条件】(コンジョイント分析)

	セキュリティ	利用に係る手続き・認証	料金	速度	エリア
サービスA	②強度弱	②認証不要	②無料	①高速	①どこでも
サービスB	②強度弱	②認証不要	②無料	②低速	②主要場所
サービスC	②強度弱	①都度認証	①有料	①高速	①どこでも
サービスD	②強度弱	①都度認証	①有料	②低速	②主要場所
サービスE	①強度高	②認証不要	①有料	①高速	②主要場所
サービスF	①強度高	②認証不要	①有料	②低速	①どこでも
サービスG	①強度高	①都度認証	②無料	①高速	②主要場所
サービスH	①強度高	①都度認証	②無料	②低速	①どこでも

無料サービスのみ利用者は、有料サービス利用者より、理解度も対策実施度も劣る

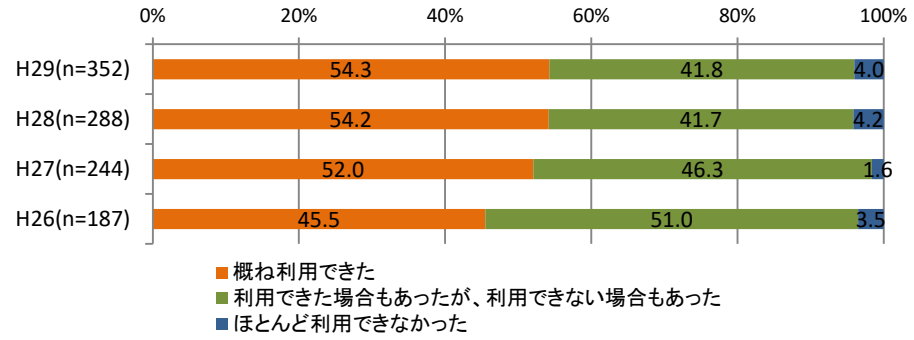
【無線LANの脅威に係る理解・対策実施状況】



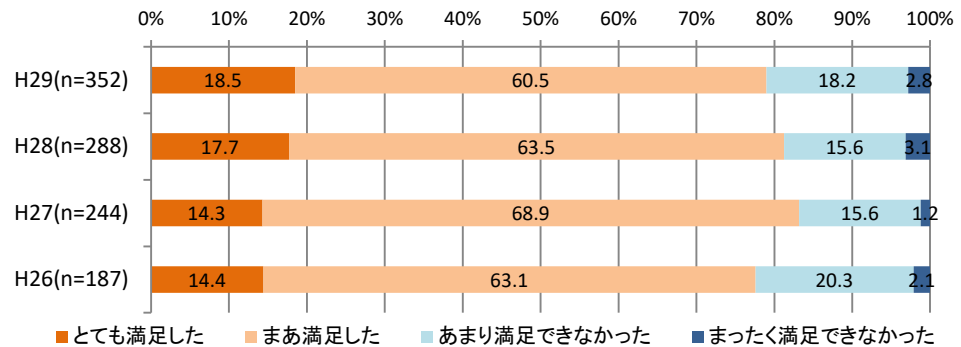
調査結果ポイント (6) ユーザーの二極化傾向の継続

- 昨年度調査に引き続き、一部の設問において中間的な回答が減少し、回答結果の二極化が見られた。
- リテラシーやセキュリティ意識については、中間層が減少し、意識が不十分な層が増加傾向にある。

【観光先で公衆無線LANの利用可否】
(観光先で公衆無線LANを使った人に限定)



【観光先での公衆無線LAN利用に係る満足度】



【無線LANの脅威に係る理解・対策実施状況(公衆無線LAN利用者)】

